

# ひょうご 水百景

No.227 芦屋川（芦屋市）

～ランドマークになったライト設計の旧山邑家住宅～

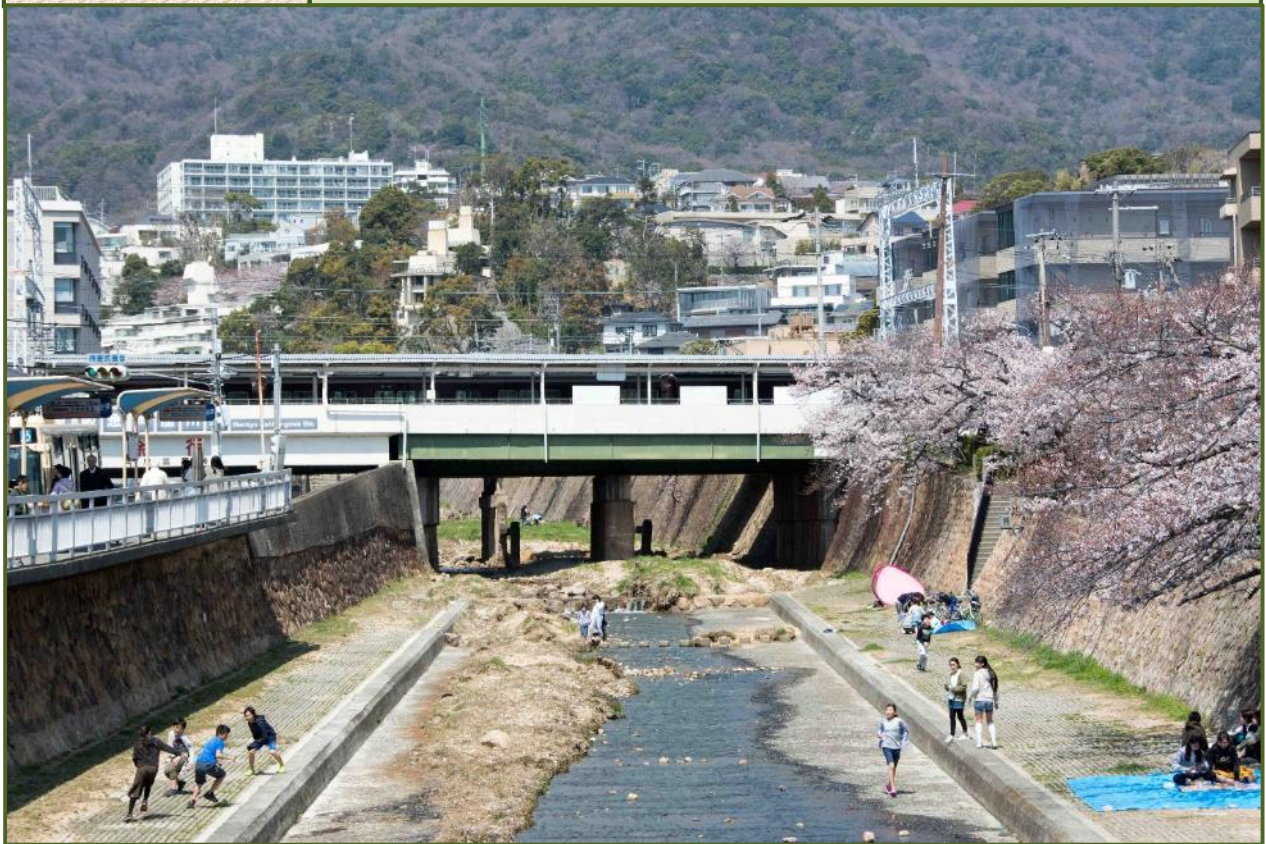


写真-1 阪急芦屋川駅越しに見るヨドコウ迎賓館（2019年4月）

## ■ 阪急芦屋川駅越しに見るヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）

写真-1 は、月若橋から芦屋川及び阪急電鉄神戸本線・芦屋川駅（橋上駅）を撮ったものです。ちょうど 4 月初旬の花見の時期だったので、高水敷では家族連れがブルーシートを広げて花見をし、子供たちは河原で戯れていました。

駅越しに「近代建築の巨匠」で旧帝国ホテルの設計者として知られるフランク・ロイド・ライト※1（Frank Lloyd Wright）が手掛けた「ヨドコウ迎賓館」（旧山邑家住宅）が見えます。

※1 フランク・ロイド・ライト：アメリカが生んだ近代建築の巨匠で、ル・コルビュジエ、ミース・ファン・デル・ローエと共に 20 世紀を代表する近代建築の三大巨匠と呼ばれている。1867 年にアメリカ・ウィスコンシン州で生まれ、シカゴ派の巨匠ルイス・サリヴァンに師事した後、1893 年より独立し建築家として名を馳せる。当時は機能性と合理性を求める“モダニズム”が建築界の潮流であったが、ライトは“周囲の自然環境と融和し、豊かな人間性を保証する建築”こそが理想であると考え、“有機的建築（organic architecture）”を提唱する。ライトの業績の多くは母国アメリカのもので、国外の業績は計画案も含めても 30 数件と少なく、その約 1/3 が日本のもの。実際に建築されたのは 6 件、その中で現在まで建築当初の姿を留めているのは、東京・池袋の自由学園明日館と旧山邑家住宅のみである。

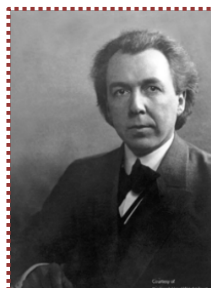


写真-2 F・L・ライト  
（「ヨドコウ迎賓館」HP  
から引用・加工）

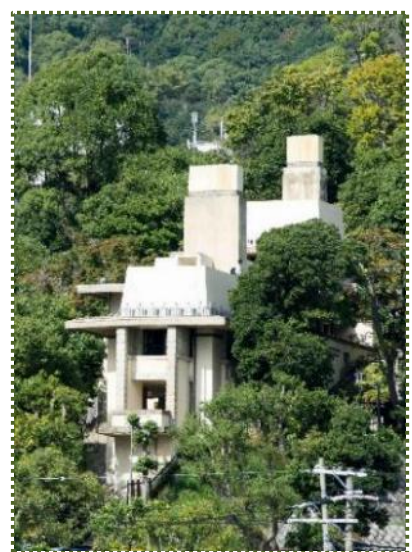


写真-3 ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）

## ■ 令和 6 年に竣工 100 周年を飾った旧山邑家住宅

大正 13 (1924) 年に竣工した旧山邑家住宅は、櫻正宗の八代目当主・山邑太左衛門（やまむらたさえもん：「宮水」を発売したのは六代目）が建てた別邸で、筆者が以前から気になっていた建築です。

大正 6 (1917) 年に来日して帝国ホテル等の設計に従事していたライトは、弟子の遠藤新※2（あらた）と太左衛門の娘婿である政治家の星島二郎（ほしまにろう）が大学時代からの親しい友人であったという縁で太左衛門を紹介されたと考えられています。

太左衛門の依頼を受けて芦屋の地を訪れたライトは、この地が自身の建築上の自然観に相応しいと気に入ったようです。

ライトが大正 7 (1918) 年に設計に着手した山邑家住宅ですが、大正 11 (1922) 年ライトが帝国ホテルから解雇されアメリカに帰国してしまった（解雇に至った経緯は『ひょうご水百景』県外編 NO.228 参照）ため、弟子の遠藤新と南信が（遠藤南建築創作所）が引き継ぎ、大正 12 (1923) 年に着工、翌年 2 月には上棟式を迎え、同年に竣工しています。

旧山邑家住宅は、ライトが日本で設計した住宅建築としてはほぼ完全な形で現存する唯一の作品で、昭和 49 (1974) 年 5 月 21 日に鉄筋コンクリート造建物としては初めて国指定重要文化財に指定されています。

なお、旧山邑家住宅は令和 6 (2024) 年が竣工 100 周年でした。

※2 遠藤新：建築家でフランク・ロイド・ライトの愛弟子。明治 22 (1889) 年、福島県に生まれる。東京帝国大学建築学科卒業。大正 6 (1917) 年、帝国ホテルの設計を引き受けたライトの建築設計事務所に勤務。大正 10 (1921) 年まで帝国ホテル設計・監督中のライトの助手として働く。翌大正 11 (1922) 年、建築事務所を開設。同年 4 月、初代帝国ホテルが失火から全焼、新館の早期完成が経営上の急務となるが、建築費用が当初の 6 倍に膨れ上がるに至ってライトは解雇され途中で帰国、その後、遠藤ら弟子が引き継ぎ、大正 12 (1923) 年に帝国ホテルを完成させた。ライトに心酔する遠藤は、独立後もライトばりの建築を設計し続けたため、ライトの使徒とも呼ばれる一方、独創性がないと軽視されることもあった。しかし、ライトの設計思想をよく理解した、ヒューマンスケールな広がりのある空間を持つ遠藤の作品は、多くの人に親しまれており再評価が行われている。

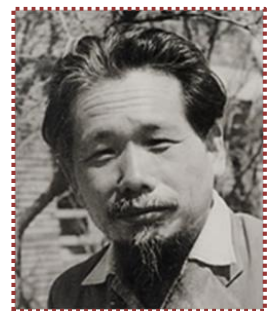


写真-4 遠藤 新

(Wikipedia から引用)

## ■ 斜面に階段状に建てられた眺望抜群の住宅

旧山邑家住宅は、約 5,200m<sup>2</sup> の敷地に外観 4 層の構成で、建築面積 359m<sup>2</sup>、延床面積 542m<sup>2</sup>、栃木県産の大谷石※3 と鉄筋コンクリートで造られています。

敷地の傾斜をうまく利用して建物が階段状に建っているので、周囲に建物が建ち並んだ現在でもバルコニーから大阪湾が一望できます。建物全体を眺めながらエントランスに導かれるアプローチや幾何学的な彫刻を施した大谷石、マホガニーの複雑な木組み装飾、植物の葉をモチーフとした飾り銅板など、自然と融和するライトの建築手法が随所に見られます。



写真-5 玄関へのアプローチ

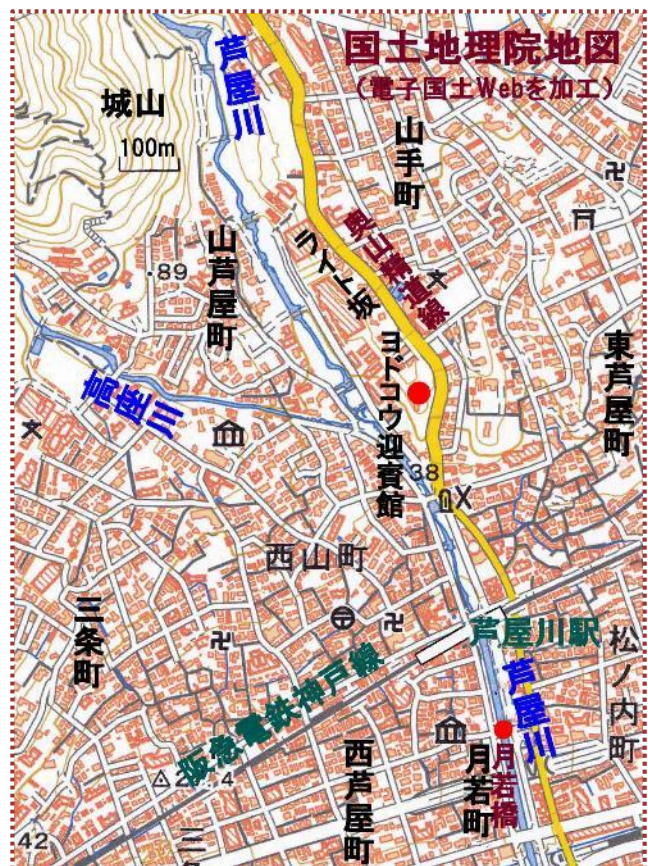


図-1 ヨドコウ迎賓館周辺の地図



写真-6 入口右のエントランス



写真-7 エントランス右上の大谷石



写真-8 2階応接室入口背後のバルコニー



写真-9 2階の応接室（奥に大谷石の大きな暖炉）



写真-10 施主の強い要望で実現した3階の和室



写真-11 大きなガラス窓がある3階西側の廊下



写真-12 内装にも大谷石がたくさん使われている



写真-13 4階食堂の大谷石の暖炉（右の扉奥は厨房）



写真-14 3階バルコニー（南側）からの眺望

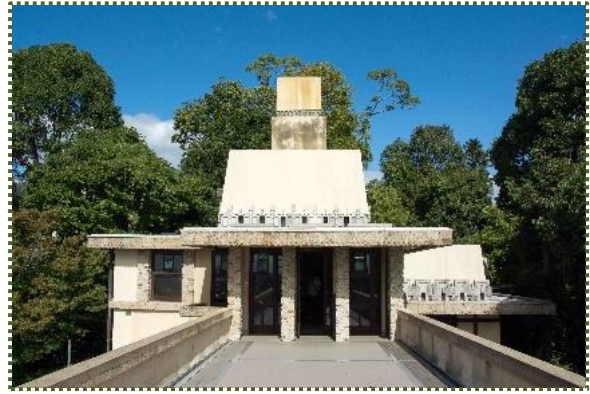


写真-15 3階バルコニー（北側）（中央に伸びる煙突）

※3 大谷石：栃木県宇都宮市北西部の大谷町付近一帯で採掘される軽石凝灰岩の石材。新生代第三紀中新世の前半に、火山が噴火して噴出した火山灰や砂礫が海水中に沈殿、それが固まってできたものとされている。

軽くて軟らかいため加工しやすく、耐火性・防湿性に優れている。多孔質の独特な風合いが広く知られるようになったのはライトが帝国ホテル旧本館に用いてからであるが、多孔質ゆえに風雨に晒される野外では雨や雪を吸水して膨張を繰り返すことで劣化が早い。

ライトは国会議事堂建設のために日本国内の石材を集めた標本室を訪れ、そこで大谷石を選んでいる。



写真-16 4階バルコニー（食堂の南側）

### ■ ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）、所有者の英断でマンションへの建て替えを撤回

旧山邑家住宅は、昭和 22（1947）年に淀川製鋼所（ヨドコウ）が社長邸として購入し、接客・接待用にも使用されます。その後、貸家や独身寮として使用されますが、老朽化のため昭和 46（1971）年にマンションへの建て替え計画が立案されます。この話を伝え聞いた建築史研究者らから保存を求める声が上がリ、淀川製鋼所はこれを受けて昭和 47（1972）年計画を撤回して保存することを決めます。よかった！

この流れを受けて、昭和 49（1974）年 5 月に国の重要文化財に指定されます。そして、昭和 56（1981）年 7 月に調査工事が開始され、昭和 60（1985）年 7 月から昭和 63（1988）年 12 月の間に淀川製鋼所が保存修理の事業者となり、国・兵庫県・芦屋市からの補助を合わせ、約 2 億 2 千 700 万円の予算で抜本的な修理が行われ、平成元（1989）年 6 月に淀川製鋼所迎賓館（「ヨドコウ迎賓館」）として一般公開されました。

なお、平成 7（1995）年 1 月 17 日の兵庫県南部地震では一部損壊の被害があったことから、前回同様、淀川製鋼所が修復工事の事業者となり、国・兵庫県・芦屋市・復興基金からの補助を合わせた予算で、同年 6 月～平成 10（1998）年 2 月に本格的な調査および修復工事が行われ、同年 5 月一般公開が再開されました。

また、平成 28（2016）年 11 月より保存工事のため一時閉館していましたが、平成 31（2019）年 2 月 16 日より一般公開が再開されています。

### ■ ライトの作品 8 件が世界遺産に登録され、旧山邑邸は推薦書に追加登録候補として記載される

令和元（2019）年 7 月 7 日、アゼルバイジャンのバクーで開催された第 43 回世界遺産委員会において、「フランク・ロイド・ライトの 20 世紀建築作品群」として、ユニティー・テンプル、フレデリック・C・ロビー邸、タリアセン、バーンスドル邸（ホリー・ホック邸）、カウフマン邸（落水荘）、ハーバート・キャサリン・ジェイコブス邸、タリアセン・ウエスト、グッゲンハイム美術館の 8 件が世界遺産に登録されました。

これらはすべてアメリカの建築作品ですが、ユネスコ世界遺産センターに提出された推薦書には、追加登録候補として 6 件の建築作品が記載されており、その中に日本の旧山邑家住宅（ヨドコウ迎賓館）も含まれているそうです。その意味では旧山邑家住宅も「世界遺産級」の建築といえます。

ライトが提唱した「有機的建築」は、浮世絵や折り紙、自然と人間の共生といった日本文化の影響を受けているといわれていますが、ライト作品と日本文化との関係の証明が旧山邑家住宅の世界遺産登録の要件となるのか。

もし登録されると、大勢の観光客が押しかけることになります。そうなる前にゆっくり見学に訪れてみてはいかがでしょうか。それにしても、所有者である淀川製綱所がマンション建設を撤回してくれてほんとうによかった！！

### ■ ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の敷地全体が重要文化財指定へ

ヨドコウ迎賓館の東側敷地（非公開）には、主屋と同じ大谷石で装飾された階段や擁壁、半地下の鉄筋コンクリート造の建物が現存しており、これらは文化財の指定から外れたまま取り残された状態となっていました。

これらの遺構の保存の在り方について所有者である淀川製綱所は、兵庫県や芦屋市、有識者と協議を行うとともに、主屋を取り巻く敷地全体の価値を評価することを目的として、神戸大学名誉教授 足立裕司氏に周辺環境の調査を依頼することにしました。

現地調査は令和 5（2023）年 1 月から 9 月にかけて実施され、敷地の測量や遺構の実測の他、芦屋市教育委員会の協力の下、東側敷地の試掘が行われました。この試掘調査により、東側の県道（奥山精道線）の拡幅や建物の建設により既に消失したと考えられていた「温室跡」や大谷石が敷き詰められた「渡り廊下跡」、また「滝の跡」や「池の跡」など新たな遺構が出土し、竣工に際して雑誌に投稿された図面や当時撮影されたと思われる写真で確認された東側敷地の姿が垣間見えるようになりました。



写真-17 大谷石が敷き詰められた廊下跡



写真-18 発掘された滝跡

（「ヨドコウ迎賓館発掘調査現地見学会資料」から引用）

上記調査により、東側敷地の付属建物や施設が主屋と一体のものとして設計され、このエリアが庭園としての機能を有していたことが判明し、ライトの建築理念である「自然環境と調和した有機的建築」として旧山邑家住宅を評価する上で、主屋だけでなく敷地環境すべてを包含して理解することの重要性が確認されました。

このことを受けて、令和 6（2024）年 5 月 17 日に開催された文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、「ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）」の敷地を重要文化財に追加指定する答申が文部科学大臣になされ、同年 8 月 15 日に追加指定が正式に決定されました。

## ■ モノローグ

筆者が学生時代に聴いていた音楽のなかに、アメリカのフォーク・デュオ「サイモン&ガーファンクル」の曲があります。「サウンド・オブ・サイレンス」、「ミセス・ロビンソン」、「明日に架ける橋」などのヒット曲は、よく聴いていましたが、彼らの作品の中に、昭和 45（1970）年に発売されたアルバム『明日に架ける橋』に収録された曲で「フランク・ロイド・ライトに捧げる歌」があります。

筆者も聴いたことがあります。ただ、アメリカの著名な建築家であるライトと、サイモン&ガーファンクルの曲名が結びつかず、違和感を抱いたまま今日に至っていました。

今回調べてみて繋がりが理解できました。アート・ガーファンクルはコロンビア大学で建築学を専攻していて、著名な建築家ライトを敬愛していたことから、ポール・サイモンにライトについての歌を書いてくれないかと頼んだそうです。サイモンはライトがどんな人物かよく知らなかったようですが、注文通り本作品を書き上げたとか。どんな人物かよくわからずにインスピレーションが湧くのが不思議です。

### キンモクセイ（金木犀）

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木（樹高が5mを超え、10m未満のもの）樹で、モクセイ（ギンモクセイ）の変種。庭園樹や街路樹として使われる。中国原産。10月頃に橙黄色の花を咲かせて甘い香りを放ち、シンチョウゲ、クチナシと合わせて、日本の三大芳香木のひとつに数えられている。花は薬用にもなる。和名の由来は、樹皮が動物のサイ（犀）の足に似ていることから中国で「木犀」と名付けられ、白い花を持つギンモクセイに対して、キンモクセイの花はオレンジ色や赤色が見立てという。写真-19は、ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の前の坂（「ライト坂」と呼ばれている）に面した民家の庭に咲いていたキンモクセイで、見事に手入れされていたので思わずカメラを構えてパシャリ！



写真-19 ライト坂に面した民家の庭に咲いていたキンモクセイ見事に手入れされていた。

### 【参考資料】

- 1 『芦屋川の歴史』 芦屋市教育委員会編 平成 25 年 3 月
- 2 『当館について、歴史、設計者について、各部屋の紹介、迎賓館の見どころ』 ヨドコウ迎賓館 HP  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/about/>  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/about/history/>  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/about/flw/>  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/guide/room/>  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/p-library/secret/>
- 3 『NEWS RELEASE～ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）の敷地全体が重要文化財指定へ』 株式会社淀川製鋼所 IR 室 PR グループ  
令和 6 年 5 月 <https://www.yodoko.co.jp/release/2024/pdf/240517.pdf>
- 4 『プレス向け情報～ヨドコウ迎賓館リニューアルオープンのお知らせ』 ヨドコウ迎賓館 HP 平成 30 年 12 月  
<https://www.yodoko-geihinkan.jp/wp-content/uploads/2024/07/181214.pdf>
- 5 『重要文化財指定と修復工事、阪神・淡路大震災での被害と修復概要』 芦屋市 HP  
<https://www.city.ashiya.lg.jp/gakushuu/juuyou.html>  
<https://www.city.ashiya.lg.jp/gakushuu/shinsai.html>
- 6 『フランク・ロイド・ライト、旧山邑家住宅、櫻正宗、遠藤新、大谷石、帝国ホテル、フランク・ロイド・ライトに捧げる歌、キンモクセイ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

※発行：令和 7（2025）年 8 月 『ひょうご水百景』 No.227

改訂：令和 8（2026）年 8 月 『ひょうご水百景』 No.227